

学術会議 IUGS 分科会 IPA 小委員会 (第 24 期・第 3 回)

日時： 2019 年 6 月 21 日 (金) 10:00~12:00

場所： 静岡労政会館 5 階 第 2 研修室

出席者：大路、佐藤、西、西田、堀、真鍋、生形、江崎、遠藤 (書記)

議題：

1. IPA、IPC の情報について

- ・ IPC6 (2022 年) 開催予定地のタイが辞退したことが報告された。

2. 中国古生物学会との交流・第 1 回アジア古生物学会議について

- ・ 本年 4 月に中国古生物学会の会長、副会長が来日し、日本古生物学会長 (真鍋) と IPA 小委員会委員長 (大路) を含む日本代表と交流に関する打ち合わせをしたこと、その中で APA (Asian Palaeontological Association) 設立、第 1 回 APC (Asian Palaeontological Congress) 開催の話が進んでいることが紹介された。

- ・ 第 1 回 APC は北京にて 2019 年 11 月に開催予定であり、第 2 回 APC を日本で 2023 年に開催してはどうかとの話があったことも紹介された。

- ・ APA との交流では、JpGU の連合大会の地球生命科学セッションのセッションを利用すると、コストやビザなどいくつかの点でメリットがあるとの意見があった。

3. 自然史標本散逸問題検討について

- ・ 日本学術会議の自然史・古生物学分科会で、この件についてアンケート調査を行なっていること、大学で標本の散逸が進んでいる状況であること、今回の日本古生物学会のランチョン小集会で本件について議論する予定であること、9 月の日本地質学会でも宇宙地球標本アーカイブスの大型研究と共同でセッションを開催する予定であることが報告された。

- ・ 本年 9 月に京都で開催される ICOM (国際博物館会議) で博物館同士のネットワーク構築について議論がされる予定であり、そこでも標本散逸問題に関連した話ができる可能性があるとの意見があった。

4. 大型研究計画の進展状況

・古生物学関係では地球科学分野で地質学会のもの（地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築）、複合領域の海洋学会のもの（深海アルゴフロート）、および基礎生物学分野のもの（沖縄自然史博物館）が学術会議に提案されたことが紹介された。

・7月に結果が出て、重点領域に進むもの（ヒアリングは9月）が発表される。

5. その他

・次回は2020年2月の駒場例会の際に開催予定。